

第4章 将来の都市構造

東近江市の都市構造の視点から、現在の土地利用の現状と自然環境等を勘案し、市域を3つのゾーンに分け、その中に交流創造エリアと歴史文化創造エリアを設定して、それぞれの地域特性を明らかにします。そのうえで、各ゾーンおよび各エリアの整備の基本方針を示します。

(1) 自然うるおいゾーン

本市の大半を占める鈴鹿山系の森林は、豊かな水を育み、緑のダムとして土砂災害や洪水から市民の生命・財産を守るとともに、地球温暖化防止にも寄与するなどの公益的機能を有しており、多くの人々に恵みとうるおいを与えています。しかし、古くから「木地師の文化」を育んできた森林も、社会経済情勢の変化に伴う林業の不振から、手入れが行き届かない状況が見られます。

この地域では、自然に親しむ癒しの場としての保健休養機能やレクリエーション・観光の場、教育の場としての交流機能の向上を図るとともに、森林保全への理解と協力を得ながら保全・整備に努め、多面的機能が持続的に発揮される豊かな森林を貴重な財産として次代に引き継いでいきます。

また、内湖などの湖辺域のヨシ原や樹林地は、琵琶湖と一体となった景観を形づくる一方、琵琶湖や河川に生息する生物の生育地となっています。さらに、観光・レクリエーションなど、人々にうるおいを与える水辺空間としての機能も有しており、これらの調和を図りながら、多様な生態系を育む湖辺域の自然環境の保全に努めます。

(2) 田園やすらぎゾーン

鈴鹿山系に源を発する愛知川が市域の中央を琵琶湖まで流れ、佐久良川・日野川とともに、その流域に肥沃な大地が広がり、緑豊かな美しい田園風景を形成しています。また、地域内には、布引丘陵や貧作山、繖山があるほか、集落の近くには、山すその林や河辺林・平地林などの里山が点在するなど、豊かな自然に恵まれています。

この地域では、こうした里山の保全、再生や活用に努めるとともに、県下有数の農業生産を支える優良農地の保全、確保に努めます。また、持続可能な農業経営を図るための基盤の整備や、農地、農村集落の果たす多面的機能の維持増進を図り、美しい自然と調和した住環境の整備に努めます。

さらに、就労の場の確保と地域経済の活性化を図るために、周辺の景観や環境に配慮しながら、計画的な工業用地の確保に努めます。



菜の花とあいとうマーガレットステーション

(3) 市街地にぎわいゾーン

国道421号が東西に走り、近江鉄道や名神高速道路、幹線道路などが交差するこの地域は、市内の交通の要衝に位置し、その大部分が市街化区域となっています。その中では、八日市駅前をはじめとする商業、名神高速道路八日市インターチェンジ周辺を中心とした工業のほか、住宅や公共機関など多様な機能が集積しており、本市の都市機能の中核を担っています。

この地域では、都市基盤の整備、居住環境の改善をはじめ、商業・交流・サービス機能や、文化、行政サービスなど、魅力ある市街地としての各種専門的機能の強化を図り、総合的な都市生活機能の拠点としてふさわしい市街地の形成とにぎわいの創出に努めます。

(4) 交流創造エリア

このエリアにおいては、本市の西の玄関口としてJR能登川駅のターミナル機能を発揮できるよう、市内東部地域から能登川駅へのアクセス道路及び周辺道路などの整備を推進します。

また、広域の都市を結ぶJR駅を活かした交流や商業などの機能の創出に努めます。

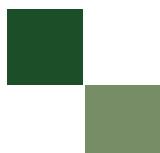
(5) 歴史文化創造エリア

このエリアは、先人の築いてきた数多くの伝統・文化や歴史的な建造物・まち並み等の歴史文化遺産を多く残しています。

エリアの中には、万葉相聞歌で有名な蒲生野や雪野山古墳をはじめ、古刹百濟寺や紅葉の名所として知られる永源寺、近江商人発祥の地として多くの商人屋敷が残る伝統的建造物群保存地区などがあり、これらの歴史文化遺産の周辺景観を含めた保全を図るとともに、地域資源を活かした観光交流などへの積極的な活用に努めます。



あかね古墳公園



東近江市都市構想図

